

平成27年4月15日

独立行政法人 大学入試センター
理事長 山本 廣基 様

一般社団法人日本地質学会
会長 井龍 康文

平成27年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する申し入れ

日本地質学会は、平成27年度大学入試センター試験の地学関連科目について、新教育課程の「地学基礎」、「地学」、および旧教育課程の「地学 I」において、いずれも平均点が他の理科科目に比べて低かったことを憂慮する意見を会員から受け取りました。そこで、日本地質学会では、今回の試験問題と試験後の大学入試センターの対応について議論し、意見を集約しましたので、その結果を大学入試センターに申し入れ致します。

1. 今回の試験問題についての見解

○ 「地学基礎」の出題内容、難易度について

「地学基礎」の問題は良問が多く、教科書の内容を単に暗記しただけでは簡単に解けない問題が複数あったと理解しております。その一方で、一部の分野で、特定の項目に出題が集中する傾向がみられました。例えば、「生物と地層に関する出題」では、3問全てがバージェス頁岩に関する問題であり、今後、このような偏りが無いよう問題を作成する際に注意して頂きたいという意見が出されました。

また、問題数が多く、複数解答の組み合わせで選択肢をつくっており、解答の仕方が複雑なものも多くあったため、問題の難易度が大きく上がったと思われます。このようなことから、受験生はたとえ教科書の内容を理解していたと

しても、「地学基礎」を他の基礎科目と合わせて60分間で間違えることなく解くのは難しかったものと思われます。

○ 「地学」の出題内容、難易度について

出題されている問題はいずれもよく精査されていて概ね良問であるといえます。しかし、地球内部の化学組成は2つの教科書でその表現方法が異なっており（元素もしくは酸化物）、これに関連した第2問の問1は受験生によっては答えにくい設問であったと思われます。解答例でも複雑に部分点を与える設定になっています。このような出題と解答形式は受験生を惑わせるため、好ましくないと考えます。

さらに、全体的に出題数が多いことに加えて、選択肢を複数の解答の組合せにしており複雑です。このような解答形式は「地学基礎」と比較しても多く、解答例でも部分点を設定するなど極めて複雑です。このような複雑な出題・解答形式が結果的に平均点を下げたものと考えられます。

○ 地学関連科目の平均点について

地学関連科目（「地学基礎」、「地学」、「地学I」）がいずれも同群の他の分野の科目に比べて平均点が低かったことは大いに問題であると考えます。特に、「地学」の平均点は40.91と著しく低く、このことは地学関係者にとっては大変ショッキングな結果であります。高校における地学の履修者数が低迷している中で、「センター試験の地学関連科目は他分野の科目より難しい」という印象を多くの受験生が持つのではないかと危惧されます。

○ 得点調整について

「地学」と「物理」の平均点の差が23.40と、20点以上の開きがあったにも関わらず、受験者数により「地学」が得点調整されなかったことは問題であると考えます。そもそも、平均点の差が出ないように問題は作成されなければなりません。出題・解答形式を工夫することにより、他の科目と大きく違わない平均点にすることが可能であったと思われるにも関わらず、対策が事前に取り

れなかったことは遺憾に思います。

2. 今後に向けた改善に関する要望

今回の結果を踏まえて、以下の点を要望します。

- (1) 知識の有無を問う問題ではなく、地球・宇宙科学に関する基礎的事項に関する理解力と考察力を問う問題となるよう今後も引き続き工夫していただきたい。
- (2) 偏りのない出題に努め、地学関連科目の平均点が極端に低くなるようなことがないようにしていただきたい。特に、今年度見られたような複雑な出題・解答形式は避けていただくよう強く申し入れます。
- (3) 今回の試験問題に関する検証を高校教員なども含めて十分に行っていただきたい。
- (4) 受験者数が1万人未満の場合であっても、平均点に極めて大きな差が生じた場合（今回のケースはこれに該当すると判断されます）には得点調整ができるよう、対応する得点調整方法を早急に検討し、確立させていただきたい。